

執筆者略歴

長島 純 (ながしま じゅん)

空将 航空自衛隊幹部学校長兼日黒基地司令

防衛大学校卒業、筑波大学大学院地域研究科修了(修士)。ベルギー防衛駐在官、統合幕僚監部首席後方補給官(J4)、情報本部情報官(J2)、(制服組の将官として初めて)内閣官房審議官(危機管理担当)、国家安全保障局(NSS)審議官兼任、航空教育集団司令部幕僚長を経て現職。

論文に「弾道ミサイルの拡散問題と東アジアの安全保障」『新防衛論集』、1994年11月号、「EUの安全保障戦略」『年報 戦略研究』、第2号、2005年1月、「NATO 変革の深化と日本—日・NATO 防衛協力へのインプリケーション」『海外事情』、第53巻第11号、2005年11月などがある。

土屋 大洋 (つちや もとひろ)

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授

慶應義塾大学法学部卒業、同大学院政策・メディア研究科後期博士課程修了(博士(政策・メディア))。国際大学グローバル・コミュニケーション・センター(GLOCOM)助教授などを経て現職。

著書に『暴露の世紀』KADOKAWA、2016年、『サイバーセキュリティと国際政治』千倉書房、2015年、『サイバー・テロ 日米 vs. 中国』文藝春秋、2012年などがある。

山口 真吾 (やまぐち しんご)

慶應大学環境情報学部准教授

早稲田大学卒業、英国 City University 修士課程修了。早稲田大学政治経済学術院非常勤講師(兼務)、総務省情報通信国際戦略局国際経済課企画官、同局技術政策課企画官などを経て現職。

奥山 真司 (おくやま しんじ)

国際地政学研究所上級研究員

ブリティッシュ・コロンビア大学卒業、レディング大学大学院修了(修士(戦略学))、同大学

院修了(博士(戦略学))。

著書に『地政学—アメリカの世界戦略地図』五月書房、2004年、訳書に、コリン・グレイ著『現代の戦略』中央公論新社、2015年、エドワード・ルトワック著『日本 4.0』文春新書、2018年などがある。

福田 潤一（ふくだ じゅんいち）

法政大学法学部兼任講師 元幹部学校航空研究センター客員研究員

東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得退学。外務省国際情報統括官組織専門分析員(米国の安全保障担当)、笹川平和財団事業部研究員(日米同盟事業担当)、世界平和研究所(現・中曽根康弘世界平和研究所)研究員を経て現職。

論文に“A Japanese Perspective on the Role of the U.S.-Japan Alliance in Deterring – or, If necessary, Defeating - Maritime Gray Zone Coercion,” in Scott W. Harold, et al., “The U.S. - Japan Alliance and Deterring Gray Zone Coercion in the Maritime, Cyber, and Space Domains”, RAND Corporation, 2017、「発足後半年超を経過したトランプ政権:その現状と課題」『CISTEC ジャーナル』第171号、2017年9月がある。

篠崎 正郎（しのざき まさお）

3等空佐 幹部学校教育部戦略教官室

京都大学法学部卒業、防衛大学校総合安全保障研究科前期課程・後期課程修了(博士(安全保障学))。航空自衛隊幹部候補生学校、統合幕僚監部運用部運用第1課などを経て現職。

著書に『引き留められた帝国—戦後イギリス対外政策におけるヨーロッパ域外関与、1968-82年(仮題)』吉田書店、2019年刊行予定、論文に「フォークランド諸島の防衛をめぐるイギリスの政策」『国際安全保障』第45巻第1号、2017年6月、「イギリス軍の撤退とペルシア湾岸の安全保障、1968-71年」『国際安全保障』第43巻第2号、2015年9月、「サッチャー政権初期の対中東政策」『軍事史学』第51巻第1号、2015年6月、「イギリスにおける海軍削減の構想と挫折—ジョン・ノットの防衛改革、1981年」『軍事史学』第49巻第3号、2013年12月、「引き留められた帝国としての英国—コモンウェルスからの撤退政策、1974-75年」『国際政治』第164号、2011年2月、訳書にジョン・G・ストウシンガー『なぜ国々は

戦争をするのか(下)』共訳、国書刊行会、2015年がある。

篠原 秀俊 (しのはら ひでとし)

2等空佐 航空研究センター防衛戦略研究室

防衛大学校卒業、米国トロイ州立大学大学院管理学修士課程修了(管理学修士)、青山学院大学大学院国際政治経済学研究所修了(国際政治学修士)、同博士後期課程在籍。航空自衛隊幹部学校教育学部戦略教官室などを経て現職。

柳田 修 (やなぎだ おさむ)

2等空佐 航空研究センター運用理論研究室

防衛大学校卒業、指揮幕僚課程修了、防衛大学校総合安全保障研究科前期課程修了(安全保障学修士)。防衛大学校防衛学教育学群戦略教育室准教授、航空総隊司令部運用課運用計画班長などを経て現職。

論文に「朝鮮問題ジュネーブ会議と米国の政策」『防衛学研究』第45号、2011年、「ジョン・ボイドのOODAループ概念」『鵬友』第38巻第4号、2012年、「航空自衛隊における機動戦理論の適用」『エア・パワー研究』第3号、2016年がある。

ジョン・ワーデンⅢ (John A. Warden III)

現 Venturist 会長、元アメリカ空軍大佐

アメリカ空軍士官学校卒業、テキサス工科大学大学院修了(政治学修士)、国防大学卒業。1966年に戦闘機パイロット資格取得後、ベトナム戦争では250回出撃した。第36戦術航空隊の指揮官(1986-87)など、幕僚や指揮官の職を数回経験。ペンタゴンで戦闘コンセプト部門の責任者として策定した「瞬雷作戦(Instant Thunder)」は湾岸戦争「砂漠の盾作戦」の基軸となった。その後米副大統領の特別補佐官、米空軍指揮幕僚大学校長を勤めた(1992-95)。

著書に *The Air Campaign: Planning for Combat*, National Defense University Press, 1988, *Winning in Fast Time: Harness the Competitive Advantage of Prometheus in Business and Life*, Venturist Publishing, 2002(共著)、論文に “The Enemy as a System,” *Airpower Journal*, Vol.9 No.1, 1995 などがある。

坂田 靖弘（さかた やすひろ）

2等空佐 作戦情報隊第3収集隊長

防衛大学校卒業、防衛大学校総合安全保障研究科前期課程修了（安全保障学修士）、タフツ大学フレッチャー法律外交大学院修士課程修了（MA）、第59期指揮幕僚課程修了。作戦情報隊、航空総隊司令部情報課、外務省アジア太平洋局地域政策課、航空幕僚監部防衛課、ジョンズ・ホプキンス大学高等国際関係大学院客員研究員、幹部学校などを経て現職。

論文に「弱者の側からの同盟変容アプローチ：米比同盟、米韓同盟からの考察」『鵬友』第38巻第6号、2018年3月がある。